

# 研究計画

## (1) 研究構造図

**【研究主題】**  
自分で考え みんなで学び合っ 思いや考えを伝え合う子どもの育成  
～ 子どもが「問い」 子どもたちで「ゴール」する授業 ～

**【目指す子ども像】**  
「考えること」を楽しむ子ども  
～「書く」「話す」を中心に～

- ① 自分の考えを「書く」「話す」子ども  
【自分で考える】
- ② 思いや考えを「つなげる」子ども  
【みんなで学び合う】
- ③ 学びを深めて「伝える」「生かす」子ども  
【伝え合う】

**【目指す授業像】**  
子どもも先生も楽しい授業  
～「問い three」の研究～

- ①導入・きっかけの「問い」  
[主体的な学びにつながる問い]
- ②展開・学び合いへの「問い」(指示)  
[対話的な学びにつながる問い]
- ③終末・ゴールへの「問い」  
[深い学びにつながる問い]

**【研究テーマ設定の理由】**  
本校の児童は明るく素直で、課題に真面目に取り組むことができる。昨年度からは、仲間と関わる学びの中でも、集団思考の場である「学び合い」を重点として、相手や目的を意識して「伝える・取り入れる・広げる」を目指した授業づくりを推進してきた。そして、互いの考えを比較・検討・交流し合う中で、教師による意図的指名やゆさぶり発問の工夫などを通して、自分の考えを見直す子どもの姿が見られるようになってきた。  
しかし、一人一人が自分の見方・考え方を働かせた授業改善までには至っておらず、自分の考えを伝えるための語彙力や的確に表現する力を高めることが課題である。  
そこで、今年度からは、「問い」にこだわることで、子どもたちが主体的に見方・考え方を働かせることのできる授業改善を目指して、確かな資質・能力の育成を図りたいと考えている。

**研究内容1** <本時>  
**問いをつくり、自分の考えをもたせる工夫**

- ①問いや意欲を引き出す課題設定や提示方法(事象・資料提示・発問)の工夫
- ②問いに対する自分の考えを「書く場(自分の言葉と心をつなぐ)」の設定
- ③「書き方」と「視点の与え方」の工夫

**研究内容2** <本時>  
**学び合っ、みんなとつくる場の設定**

- ①個の考えをもち寄って、グループ(3人程度)で何をするのかがはっきりと分かる指示の工夫
- ②学び合いにおける、明確な「書く場(みんなの言葉と心をつなぐ)」の設定
- ③「書き方」と「視点の与え方」の工夫

**研究内容3** <単元>  
**学びの深まりを実感できる工夫**

- ①学習したことを実際の生活に生かしたり、他の学習等で活用したりする単元の工夫
- ②単元全体の具体的な評価と、振り返りにつながる「書く場(学びをつなぐ)」の設定
- ③「書き方」と「視点の与え方」の工夫

**研究内容4** <単元> 「個別最適な学び」と「協働的な学び」につながるICTの効果的な活用

**【研究仮説】**

- ・授業や単元において、「三つの問い(問い three)」を意図的に設定することで、自分なりの見方・考え方を働かせて、主体的に“思いや考えを伝え合う子どもが育つであろう。”
- ・友だちと主体的に学び合う場面を設定し、自分の考えを深めて実生活や他の学習で活用することに意図的に取り組むことにより、学びの充実感を味わうことができるであろう。

**【研究のまとめ】**

- ・PDCAサイクルを共有しながら研究内容に沿って全体の授業改善を図る。
- ・年に2度のアンケートを実施し、子どもの変容や指導の手立ての有効性を確認する。

(2) 仮説の検証計画

①【県学習状況調査】(12月：4～6年)

- ・「問いを発する子どもの基盤づくりに資する問題」「全国学力・学習状況調査『活用』に関する問題の出題趣旨を生かした問題」「複数学年にわたって出題した共通問題」において県平均と同等、あるいは設定通過率を上回っていれば概ね良好とする。

②【標準学力テスト】(1月：1～3年)

- ・「思考力・判断力・表現力に関する問題」で全国平均と同等であれば概ね良好とする。

③【教師による自己評価】

- ・4段階評価で「3以上」であれば概ね良好とする。(前期・後期)

④【児童アンケート】(前期・後期)

- ・学習に対する意欲や満足度を評価し、4段階評価で「3以上」であれば概ね良好とする。

⑤【研究授業】(年8回)

- ・研究内容について協議し、子どもの姿から判断する。

(3) 「研究プロジェクト」の組織と内容

◎リーダー ○サブリーダー

学力向上プロジェクト ◎佐々木和 ○伊藤	【授業改善・スキルタイム・家庭学習をつなぐ学力向上】
ことばのプロジェクト ◎加賀谷 ○進藤	【読書活動や詩の暗唱をつなぐことばの土台づくり】 加藤
心のプロジェクト ◎田仲 ○斎藤	【道徳と特活の融合による「心を育てる学校」の実現】 校長
I C Tプロジェクト ◎今野 ○佐々木崇	【授業におけるI C Tの効果的な活用促進】 鈴木 教頭